東京都杉並区で行われている学校支援本部の活動に見入る参加者ら

さあ、地域の出番ですよ

▼平成24年度　町学校支援ボランティア啓発大会

地域住民による学校支援活動の意義、必要性について理解を深めようと、文部科学省社会教育アドバイザーで、東京都杉並区学校教育コーディネーターの伴野博美さんを招き、2月15日、町公民館で学校支援ボランティア啓発大会が開かれました。

今回は『地域の子どもは地域で育てよう』～みんなで育てる子ども　みんなで支える学校～がテーマ。学校支援ボランティアや保護者のほか、社会教育関係者など、町内外から多くの人が参加し、地域の大人たちと学校とのかかわり合いについて学びました。

地域は人材の宝庫

杉並区にある区立杉並第一小学校は、以前から子どもたちがオシドリの餌となるドングリを日野町に送り、夏休みには子どもたちが町を訪れ自然体験を行うなど、交流が盛んです。講師の伴野さんも「子どもたちを温かく迎えてくださる日野町は、杉並の大切な地域の一つ」と話します。

「学校は、助けてほしい支援を思いつかないのが現状です。だから地域を良く知る学校教育コーディネーターが必要なんです。地域の中に人材は豊富で、専門的なことを求められると生き生きされますよ」と伴野さん。地域と学校との連携で、地域の活性化にもつながると訴えます。

地域の大人の活躍の場

実践事例として、杉並第一小学校で学校支援ボランティアが活躍している学習支援『朝先生』の活動を紹介しました。

これは基礎学力の向上を目的としており、午前8時25分から一時

間目開始までの15分間、担任教師が用意した計算問題のほか、地域の風習などを話し、子どもたちを温かく見守っているとのこと。また、時間中に感じた子どもたちの変化などを、担任教師や校長と情報交換し、安心した教育につながっているそうです。

朝先生は、定年後や勤めている人、主婦など、地域の大人が登録し活躍。「皆さんからは子どもたちと会うことで、元気になったと聞きます。担任教師に見えないことが分かり、学校からは大変喜ばれています」と、伴野さんは話します。

また、放課後子ども教室の『すぎっ子くらぶ』の活動を紹介しました。「テレビゲームが子どもたちの遊びの中心を占める時代、ゲームでは学ぶことのできない人間関係を学ぶ場です。子どもらしく、元気いっぱい遊ぶ姿が見られます。活動を通して、それぞれの子どもたちの光り輝くところが再確認できる場でもあります」と目を細めます。

子どもたちを見守るボランティアは、毎日活動を振り返り、気付いたことを学校に報告し、子どもたちと学校をつないでいます。

今こそ地域の出番

近年、家庭力が落ちていると指摘する伴野さん。「放課後子ども教室に来る子どもたちの中で〝ただいま〟が言えない子がいます。また、〝子どもが箸も持てない。学校は何を教えているのか〟と訴える保護者がいます。これが現実です。生活力は誰が教えることでしょうか。家庭に原因がある今、地域の出番なんです。地域が温かく子どもたちを育てていく役割を担っています」と、参加者にもっともっと子どもたちにかかわってほしいと伝えました。

町では保小中一貫教育を進め、平成24年度から学校支援地域本部が活動しています。〝温かく見守りたい〟〝自分の力を生かしたい〟という気持ちがあれば、誰でもボランティアとして参加できます。

最後に伴野さんは「子どもたちは、私たちが本気で愛している気持ちを分かってくれています。学校支援地域本部は、学校の最大の応援団です。頑張ってください」とエールを送りました。

日野町でも、活動が活発になることを願う

文部科学省　社会教育アドバイザー　伴野（ばんの）　博美（ひろみ）さん

私たちの仕事は、地域と学校の橋渡しです。学校のカリキュラムにより近い事業計画を提案します。学校と相談することで、本当に必要な活動ができます。

今回、日野町ではかかわっていただけるボランティアが少ないという報告を聞かせていただきました。皆さんには、ぜひとも負担感のない活動に取り組んでいただきたいと思います。

誰かがやってくれるのではなく、「子どもに必要なこと」と活動の目的を明確にし、使命感を持って取り組んでみましょう。活動に達成感が生まれるはずです。日野町の活動が活発になることを願います。

また、私たちの活動の一つ「山村遊学」では、杉並第一小学校の子どもたちがお世話になっています。

子どもたちは、夏休みに日野町でさまざまな体験活動をして、人と人とのかかわりを見直し、人間として成長しています。親も感想を聞いて涙します。今後もよろしくお願いします。